

信仰・希望・愛

「いつまでも残るものは信仰と希望と愛です」1 コリント 13:13

心を静めてこの聖句に聴き入っていると、世界が明るくなってきます。こんなちっぽけな、明日の命も分からない無力な人間が、永遠なる神様を信じることができるなんて。これが奇跡というものだ、信仰とは神様が与えてくださるものなのだと、心底思います。

与えられるものなら、求める他ありません。どんなに頑張っても自分の力で信仰を持つことはできないから、「神様、あなたを信じる信仰をください」と祈り求めます。イエス様が「わたしたちに必要な糧を今日与えてください」と祈りなさい、と教えてくださったように、そして今日の糧を今日いただくように、今日生きるための信仰を今日いただいて生きていく。それでいいのだと思うと心が軽くなって、明るくなってきます。これからどうなるのだろう、自分にも、日本にも、世界にも暗い悲惨なことが待ち受けている、食べ物もなくなるかも知れない、私の信仰だってどうなるか分からないなど考えていると、心は暗く沈むばかり。でも、イエス様が言われるのです。「明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である」と。今日生きるための信仰を今日いただいて、神様の御愛を信じて、すべて必ず善くなると信じて生きていく。そのような信仰は決してなくなる、いつまでも残るとあるのです。天から喜びの風が吹いてくるようです。

「神は愛です」とよく言われますが、その御言葉はヨハネの手紙1の4章にあります。7節～21節「神は愛」という箇所を読みました。

愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。いまだかつて神を見た者はいません。わたしたちが互

いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってくださり、神の愛がわたしたちの内ですべて全うされているのです。

神はわたしたちに、御自分の霊を分け与えてくださいました。このことから、わたしたちが神の内にとどまり、神もわたしたちの内にとどまってくださることが分かります。

わたしたちはまた、御父が御子を世の救い主として遣わされたことを見、またそのことを証しています。イエスが神の子であることを公に言い表す人はだれでも、神がその人の内にとどまってくださり、その人も神の内にとどまります。わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。

神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。こうして、愛がわたしたちの内ですべて全うされているので、裁きの日に確信を持つことができます。この世でわたしたちも、イエスのようであるからです。愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです。これが、神から受けた掟です。

この箇所をくり返し読んでみると、愛についておぼろげにわかってきます。

神は、私たちが生きるためにイエス様を与えてくださった、それが愛だとあります。美しい草花も、秋の訪れも、輝く星も、神様の創られたものはみな、神の愛を語っています。でも、それ以上の愛があることを、イエス様のご生涯が語ってくれます。私たちに代わって十字架につき、罪をあがなってくくださったイエス様こそ、神の愛の結晶なのだと言われます。

神の愛の内にあるなら、「裁きの日に確信を持つことができます」とあります。「愛には恐れがない」とは印象的な言葉ですが、恐れるのは神の愛を知らないからだと言うのです。

♪ 恵は わが身の 恐れを消し

任する心を 起させたり

とアメイジング・グレイスの歌詞にもあるように、神の愛、恵そのものであるイエス様を一心に思っていると、いつしか恐れも消えて、すべてをお任せする心が与えられるのだから不思議です。

『神を愛している』と言いながら兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える兄弟を愛さない者

は、目に見えない神を愛することができません。」

と、最後にあります。この言葉が、一切の愛の幻想を壊してくれます。いくら愛について考えたり理想を語ったりしても、自分の具体的な心の動きを見ればその醜さ、汚さに呻くことが度々です。でも、そんな現実の自分、愛の戒めなどとても守れない自分を知らされるからこそ、「わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」というイエス様のお言葉が骨身にしみて、「愛は神から出るもの」という御言葉に救われるのです。

「神様、あなたの戒めに背いてやまない私を赦してください。そして、あなたの愛をください」と祈ります。この祈りが退けられたことは、ただの一度もありません。